

野外活動を取り入れた婚活の現状と課題

鎌田 芽衣 (生涯スポーツ学科 野外スポーツコース)
担当教員 中野友博

キーワード 野外活動 婚活 現状と課題

1. 序論

総務省統計局「国勢調査」によると、1960～2010年の年齢別未婚率の推移では、25～39歳の未婚率は男女とも上昇し続けており、25歳以上の独身者の結婚できない理由は、「適当な相手にめぐり合わない」が多い。近年では、未婚化晩婚化が社会問題となっている。2008年頃から社会現象となり始め、多くの行政や民間でも婚活が実施されている。橋本ら（2013）の研究では、野外キャンプ活動のコミュニケーション促進効果の要因として共同作業、場の雰囲気、感動的体験が内容分析から確認されている。

そこで本研究では、野外活動を取り入れた婚活の現状と課題を明らかにすることを目的とし、そのため以下の4つの課題を設定した。

【1】 野外活動を取り入れた婚活の現状を明らかにする。

【2】 野外活動を取り入れた婚活の参加者の特性を明らかにする。

【3】 野外活動を取り入れた婚活の参加者の参加動機や意識などを明らかにする。

【4】 野外活動を取り入れた婚活の問題点や弱みを明らかにする。

2. 研究方法

【対象】 野外活動を取り入れた婚活を実施している5団体を対象とした。また、そのうち2団体で実施された計4回の婚活の参加者男性34名、女性27名、計61名を対象とした。

【調査用紙】 主催者対象の調査内容は、2013、2014年度に実施したプログラム内容、カップル成立総数、開催動機、問題点などである。また、参加者対象の調査内容は、婚活サイト「E恋愛結婚」の会員データを参考に筆者が独自に作成した。

3. 結果と考察

1) 課題1について

プログラムで多いのは、トレイルランニング、プロジェクトアドベンチャー、トレッキングであった。開催動機は、婚活支援と施設PRが半数を占めていたが地域活性化を動機としている団体もあった。実施時期は、秋が最も多く、日数は半日から1日であった。参加者の募集年齢の平均は、男性が30～35歳、女性が28～34歳で、この年齢が婚活適齢期ということが分かった。参加者総数は、女性が男性を20人上回ったため、女性の方が結婚意識が高いことが考えられる。

婚活でのカップル数は、婚活1回ごとに数組成立しており、婚約数も数件確認されている。このことから、婚活に野外活動を取り入れることが有効である。

スタッフの平均人数は、4～6人であった。

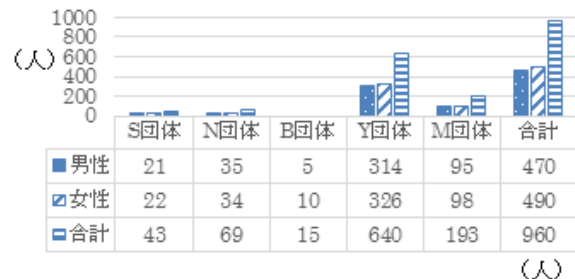


図1 参加者総数

2) 課題2について

参加者の年齢は男女共に30～39歳が最も多かった。最終学歴は、男女共に大学が最も多く、次いで多かったのは、男性は高校で女性は短大であった。また、男性参加者の2番目に多かった回答が高校であったことから、野外活動を取り入れた婚活では、相手の内面などを重視される。自家用車保有率が男女共に高いことから活動的な参加者が多いと考えられる。

3) 課題3について

婚活に参加した理由は、婚活を目的としたものが39%、野外活動の楽しみを目的としたものが34%、野外活動の楽しみと婚活の双方を目的としたものが24%であった。他の婚活の経験がある参加者は、67%であったことから、結婚活動に意欲があることが分かる。そのうち16%が野外活動を取り入れている婚活、19%が体験型の婚活であったことから、活発的に行動や運動する参加者が多い傾向があった。

野外活動を取り入れた婚活参加者の96%がコミュニケーションをとれたと回答していることから、婚活に野外活動を取り入れることは、有効であるということが明らかになった。

4) 課題4について

問題点は環境面や金銭面であった。環境面では、天候に左右されてしまうことが挙げられた。また、行政などでも野外活動を取り入れた婚活プログラムが安価で行われているため民間の団体は、金銭面で非常に厳しくなっていることが明らかになった。

4. まとめ

野外活動を取り入れた婚活は、団体ごとに活動回数や内容に差があり、普及途中であり、金銭面や環境面への対策が課題となる。また、婚活に野外活動を取り入れることは、コミュニケーションがとりやすいため婚活に有効である。

引用文献

橋本公雄. (2013) 短期的野外キャンプ活動におけるコミュニケーションの促進効果, 熊本学園大学論集「総合科学」, 383, p189
総務省国勢調査 (2010) <http://www8.cao.go.jp/>(10月10日に閲覧)